

県産材や地域天然素材を活かした家づくりを推進する富山県優良住宅協会。勉強会などを通して、会員工務店の技術向上や若手技術者の育成に励んでいる。今年5月に代表理事（会長）に就任した石田保弘氏に、話を聞いた。

◆対ハウスメーカー 地域工務店

と関連事業者ら会員67社で構成する富山県優良住宅協会。勉強会などを通して業務や技術、人材、品質、情報など、幅広く会員をサポートしている。「大手ハウスメーカーに対抗すべく、地域工務店と関連事業者が連携し業界の持続的かつ健全な発展を図り、優良な住宅の整備と安定供給を目指していく」との姿勢だ。

◆育成 国土交通省の補助を受け

「木造住宅建築技術基礎講座 はじめの一步塾」が今年度開講。経験の浅い大工らが、プレカット構造材を用いた木造軸組住宅の基礎となる知識や技能などを学べるプログラムとなっている。自身も講師を務め「社会人としての基礎から、労働安全衛生法、木造軸組住宅概論、建方、外装、内装施工法、道具工具類の取扱

富山県優良住宅協会代表理事

石田 保弘氏



いといった基礎知識や技能を修得してもらおう」と力が入る。

◆ウッドショック コロナ禍から経済回復が進む米中で木材需要が高

まるなど、今春ごろから国内の輸入木材価格が高騰。これに伴い国産材も値上がりし「ウッドショック」が業界を襲う。「協会が今夏に実施し

塾開講し若手技術者育成

た「ウッドショックの影響に関するアンケート」では、多くの工務店で「材木や建築資材が入荷しにくく、価格も高騰している」との回答があった」と明かす。

協会としては「在庫や入荷状況を把握し、工程を調整するな

どして、お客様に極力迷惑をかけないように対応したい」との姿勢だ。

◆応急 2015年9月、災害時

における応急仮設木造住宅の建設に関する協定が、富山県と全国木造建設事業協会（全木協）との間で締結。

「災害時、県の要請を受けて応急仮設木造住宅の建設や被災住宅の応急修理を担う」もので、協会では全木協の傘下団体として体制を整備してきた。昨年2月には県広域消防防災センター敷地内に富山型応急仮設木造住宅（9坪型）モデルハウスを建設。「コロナ禍で県民に一般公開で



「優良住宅の安定供給を」

いしだ・やすひろ 1955年生まれ、66歳。高校卒業後に大工石原

建築に入社。同社の前社長と石原建築を設立し、2005年に同社社長に就任。富山県優良住宅協会では理事、副会長を歴任。20年に優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を受賞。趣味はゴルフ。

きなかったが、会員のみなならず広く防災教育の普及啓蒙に役立っているつもり」という。今後、北信越共通仕様（長野県・富山県）などへの理解を深めるため、勉強会を重ねていく。